

パナマ内政・外交（2022年6月定期報告）

【ポイント】

- 3日、5月のコロン県での燃料価格高騰等に対する抗議活動等を踏まえ、政府は公共交通機関等の燃料価格の固定を発表した。30日、政府は農業用貨物についても、同固定措置を適用する旨発表した。
- 20日、大統領府はコルティソ大統領が中リスクの骨髄異形成症候群との診断を受けた旨発表した。
- 20日、パナマ政府は軍事独裁政権下の被害者親族に対し、約1,100万米ドルの賠償金を支払う旨発表した。
- 30日、選挙裁判所は「MOCA (Movimiento Otro Camino)」を政党として正式に承認した。
- 1日から2日、パナマにおいて、EU・中米対話「開発のための新たなパートナーシップ」が開催された。
- 6日から10日、コルティソ大統領は、第9回米州首脳会議への出席のためロサンゼルスを訪れた。
- 13日から14日まで、パナマを初訪問したリチャードソン米南方軍司令官はコルティソ大統領と会談した。
- 14日、モイネス外相はパナマを訪れたウルピライネン欧州委員会委員（国際協力担当）と会談した。
- 19日、パナマは同日に実施されたコロンビア大統領選挙決選投票において、当選が確定したグスタボ・ペトロ氏に祝意を表明した。

【本文】

●内政

1 燃料価格高騰等に対する抗議活動と政府の対応

(1) 燃料価格の固定措置

（約1か月に及んだコロン県でのデモ及びストを収束させるため、5月末に両者で合意した燃料価格の固定に関し、）3日、政府は公共交通機関（バス、地下鉄）、タクシー、商用車、貨物、農業機械及び小規模漁業船の燃料価格の固定（1ガロン（約4.5リットル）当たり3.95米ドル）措置を発表した。（当館注：価格固定以前は1ガロン当たりハイオク：5.75ドル、レギュラー：5.17ドル、軽油：5.32ドルにまで上昇していた。）

(2) チリキ県の農業用貨物輸送業者による抗議活動

26日以降、チリキ県において、農業用貨物輸送業者による燃料価格高騰に対する抗議活動や道路封鎖が実施されたが、30日、双方で農業用貨物について

も、燃料価格の固定（1ガロン当たり3.95米ドル）措置を適用することで合意した。これを受け、ストが解除され、パナマ首都圏等向けの農産品の輸送が再開された。

2 コルティソ大統領の健康状態

20日、大統領府はコルティソ大統領が中リスクの骨髄異形成症候群との診断を受けた旨を発表した。かかる診断結果を受けたコルティソ大統領は、国会開会式において施政方針演説を行う7月1日以降に米ヒューストンを訪問し、2度目の検査受検を予定している旨を発表した。なお、大統領府は、コルティソ大統領の身体検査結果は正常であり、健康状態は良好であると述べつつ、同大統領の健康状態の推移は必要に応じて適宜、国民に伝えていく旨を発表した。

3 パナマ政府による軍事政権下の被害者親族に対する賠償金支払い

(1) 20日、パナマ政府は、米州人権委員会（CIDH）に申立てが行われた軍事独裁政権下（1968年10月11日～1989年12月20日）の15名の被害者親族に対し、約1,100万米ドルの賠償金を支払うことで友好的和解に合意したと発表した。

(2) 本事案は、軍事独裁政権下で暴力及び権力の乱用が蔓延していたパナマにおいて、国家治安部隊により、109名が超法規的処刑又は強制執行の被害者になったとして、2003年10月、チリキ失踪者親族委員会（COFADECHI）等が米州人権委員会（CIDH）に申立てを行ったもので、2018年12月、CIDHはパナマ政府及び当事者間で友好的和解交渉が開始され、2019年5月に双方で合意に至った。本件に関し、2019年6月、CIDHは報告書にて発表した他、パナマ政府も官報にて発表した。なお、今般、パナマ会計検査院は同賠償金の支払いを承認した。

4 「MOCA」の政党承認

30日、選挙裁判所（TE）は「MOCA（Movimiento Otro Camino）」を政党として正式に承認した。（当館注：MOCAの党首はリカルド・ロンバナ弁護士で、同氏は2019年大統領選挙で無所属候補として立候補し、コルティソ大統領及びルークスCD党首に続いて、第3位の得票数（約19%）を獲得した。）なお、同党承認によりパナマの政党数は9政党となった。

5 新型コロナウイルス感染症

(1) 経口治療薬の到着

10日、新型コロナウイルス感染症の経口治療薬であるモルヌピラビル（米メルク社）がパナマに到着した。また、18日、モルヌピラビルと同様のコロナ経口治療薬であるパキロビッド（米ファイザー社）1万5千箱が到着した。

(2) ファイザーワクチンの到着

15日、25万7千ドースのファイザーワクチンが到着した他、28日、児童用(5~11歳)ファイザーワクチン25万2千ドースが到着した。

(3) モデルナ社の乳幼児向けワクチンの調達

29日、閣議において、モデルナ社の乳幼児(生後半年から5歳未満)向け新型コロナウイルス・ワクチンの38万ドース(購入価格:503.5万米ドル)の調達を承認した。

●外交

1 EU・中米対話のパナマ開催

(1) 1日から2日、パナマ外務省において、EU・中米対話「開発のための新たなパートナーシップ」が開催された。同対話には、パナマよりモイネス外相、カスティージョ社会開発大臣等が出席し、EUからはボレルEU外務安全保障政策上級代表兼欧州委員会副委員長よりビデオメッセージが寄せられた他、国際機関及び開発銀行等の代表者も出席した。

(2) 同対話は、EUと中米地域のパートナーシップの強化を目指し、同地域の政策及び技術対話の補完を模索し、ポスト・パンデミックの持続可能な回復という枠組みにおいて、懸案課題に共に取り組むメカニズムを特定することを目的とするもので、拡大する地球規模課題である公正なデジタル移行、科学協力、リスク管理、将来の災害及びパンデミックに対する備え等に向けた新たな協力アジェンダに関し、意見交換するワーキングセッションが設けられた。また、同日程で開催された「若者と仕事に関する国際フォーラム」では、若者、雇用の可能性、起業及び教育といったテーマについて意見交換が行われた。

2 コルティソ大統領の第9回米州首脳会合への出席

(1) 6日から10日、第9回米州首脳会議への出席のためロサンゼルスを訪れたコルティソ大統領は、米州首脳会議において演説した他、「熱帯太平洋海洋回廊(CMAR)に関する覚書」、「海洋保護のための米州宣言」及び「移民と保護に関するロサンゼルス宣言」にそれぞれ署名した。

(2) 8日、同大統領は、コスタリカ、ドミニカ共和国の大統領とともに「民主主義の発展のための同盟(ADD)」に関する討論会への出席した他、3か国による首脳会談を行った。なお、10日、パナマ、コスタリカ及びドミニカ共和国の3か国の首脳は、「民主主義の発展のための同盟」への加盟を表明したラッソ・エクアドル大統領を歓迎した。さらに、10日、コルティソ大統領はボリック・チリ大統領と首脳会談を行った。

(3) なお、今次訪問には、コルティソ大統領夫人、モイネス外相、アルファロ

貿易産業大臣及びマルティネス駐米パナマ大使等が同行した。また、同大統領夫人はパナマ市内の生物多様性博物館を建築したFrank Gehry氏を訪問した他、ラッソ・エクアドル大統領夫人と会談した。

3 米南方軍司令官のパナマ訪問

13日から14日まで、パナマを初訪問したリチャードソン米南方軍司令官は、13日、コルティソ大統領と会談した。同会談において、両者は中南米地域の治安強化のための両国の努力について意見交換した他、パナマ運河の安全保障、国際的な組織犯罪対策、国境治安、不法移民及び女性の平和と安全保障等についても協議した。なお、14日、同司令官は、ピノ治安大臣と国境治安について会談した。

4 ウルピライネン欧州委員会委員のパナマ訪問

(1) 14日、モイネス外相は、EUの新戦略である「グローバル・ゲートウェイ(Global Gateway)」の紹介のため、中南米歴訪の一環としてパナマを訪問したユッタ・ウルピライネン(Jutta Urpilainen) 欧州委員会委員(国際協力担当)と会談した。

(2) 両者は、ロシアのウクライナ侵攻の影響による課題、新型コロナからの復興、気候変動及び生物多様性等の地球規模課題について意見交換した他、特に第19回ワシントン条約締約国会議及びパナマが主催する第8回海洋会議(Our Ocean)等の重要な多国間会議を視野に入れ、両者における取組みを強化することに合意した。

(3) また、先般開催された米州首脳会議の成果、中米統合機構(SICA)、民主主義における開発のための同盟(ADD)の展望等を含め、中南米地域の現状についても意見交換した。

(4) 現在、EUがパナマで支援しているプロジェクトには、エネルギー・アクセス(ノベ・ブグレ先住民自治区)、コミュニティの植林(ベラグアス県)及び持続可能な都市開発等があるが、新たなイニシアティブとして、200万ユーロの「気候変動に関する水の安全保障及び生物多様性の促進」プロジェクト等の実施を発表した。

5 ペトロ次期コロンビア大統領当選への祝意表明

19日、パナマ政府は同日に実施されたコロンビア大統領選挙決選投票において、当選が確定したグスタボ・ペトロ氏に祝意を表明した。

(了)